

2019 年度事業計画（中高）

1. 基本方針 聖書に基づくキリスト教精神の原点に立ち、常にこれを意識しながら教育活動にあたる。すべての生徒の自己肯定感・自己効力感を高めることを教育目標に設定する。 「学ぶ」……主体的に楽しく学ぶ。「認める」……他者を認め、自分を認める。「つながる」……他者や社会とつながる。以上の3つのキーワードを設定し、それぞれ「主体性の伸長」「人間理解の深化」「グローバルマインドの育成」をカリキュラムポリシーとする。この新しい教育課程の構築をより具体的なものとし、その実践を成果につなげるように取り組む。			
2. 具体的アクション			
第2次中期計画 (行動計画)	2019 年度事業計画	目標達成のための手段等	具体的な目標（数値目標）
(1) 教育理念の実践と内部質保証の 実質化 ア キリスト教主義教育 a. 礼拝を守る	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の礼拝を丁寧を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール礼拝、放送礼拝とも、生徒に、静粛・黙想・傾聴の姿勢を守らせる。 ・キリスト教行事の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教強調週間特別プログラムの持ち方を検討し、より良いものに改善する。
イ 新しい教育課程の構築 a. 課題研究カリキュラムの実践 b. 育成すべき資質・能力の設定 c. 一人一台 PC の導入・活用 d. グローバル教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・キーコンピテンシー評価の構築 ・「総合的な探求の時間」の充実 ・EP 講座の新設 ・教科横断的な取り組みの推進 ・ラーニングコモンズ利用の充実 ・PS および海外研修の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリック評価の構築 ・課題研究教育検討委員会による指針 ・EP 講座の挑戦 ・教育構想検討委員会が ICT 教育を統括する。 ・修学旅行改編の検討 ・他の教育機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の基準が分かりやすいものにする。 ・課題研究を中心に据えた学力感を教師、生徒ともが共有できるように進める。 ・2020年度からの導入を目指す。 ・2022年度高1実施を検討する。
ウ 生徒支援の充実 a. 集団に適応できない生徒の支援 b. 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制作りをする。 ・SNS 使用に伴う危険性を理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談会議による検討 ・情報共有のケース会議の在り方の充実 ・教師側の統一した指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ルームの在り方の見直しをする。 ・生徒保護者アンケートの「規則順守」評価数値の上昇。
エ 広報・入試対策 a. 私学受験者の確保 b. 入試問題の適正化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・有効な私学受験者確保の動きを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールの増設。内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月にオープンスクールを実施 ・受験者の増加。
オ 進路実績を伸ばす a. 難関大学の実績を伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習習慣の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、教科担当が生徒を見る 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディーサポートにおいて、学力・学習習慣共に向上

b. 大学共通テストへの対応 c. 推薦入試等への対応	・新しい教育課程に対応した進路体制をつくる。		する生徒が60%以上する。 ・東大京大4名以上。国公立医歯薬8名以上。
------------------------------------	------------------------	--	--